

# 男女平等参画に関する市民意識調査 報告書

(概要版)



平成24年2月  
小樽市

## 〔意識調査について〕

本調査は、平成23年8月に2,000人の市民の方に御協力をいただいて実施した「男女平等参画に関する市民意識調査」のあらましです。御協力をいただいた皆様には心からお礼申し上げます。

この結果は、第2次小樽市男女平等参画基本計画（仮称）策定の基礎資料として、また、今後の男女平等参画を推進していくうえで、貴重な資料として活用させていただきます。

## 〔目 次〕

I	調査の概要	.....	1
II	回答者の属性	.....	1
III	調査結果の概要		
1	<u>暮らしや生き方について</u>		
1.	結婚観、家庭観に関する意識について	.....	2
2.	家庭内での家事分担について	.....	5
3.	子育ての考え方について	.....	5
4.	自分の世話を誰に見てもらいたいか	.....	7
5.	家族に見てもらおう場合は誰に頼みたいか	.....	7
2	<u>仕事と生活の調和について</u>		
6.	生活の中における優先度について	.....	8
7.	地域活動等への参加時における支障について（複数回答）	.....	9
8.	男性が家事、子育てなどに参加するために必要なことについて（複数回答）	.....	9
9.	男性が育児休業や介護休業を取ることにについて	.....	10
10.	女性が職業を持つことにについて	.....	11
11.	女性の職場進出のための条件整備について（複数回答）	.....	11
3	<u>男女の人権について</u>		
12.	ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメントについて（複数回答）	.....	12
13.	DV等の暴力をなくすためにはどうしたらよいか（複数回答）	.....	12
4	<u>男女平等参画社会の形成について</u>		
14.	男女の地位の平等感について	.....	13
15.	学校教育における男女平等のあり方について（複数回答）	.....	13
16.	政治や行政での女性意見の反映について	.....	14
17.	政策等決定の場で女性が少ない理由について（複数回答）	.....	14
18.	男女平等参画社会の実現のため社会をどう変えるか（複数回答）	.....	15
19.	男女平等参画を進めるために市に望むこと（複数回答）	.....	16
5	<u>全体を通して</u>	.....	16

# I 調査の概要

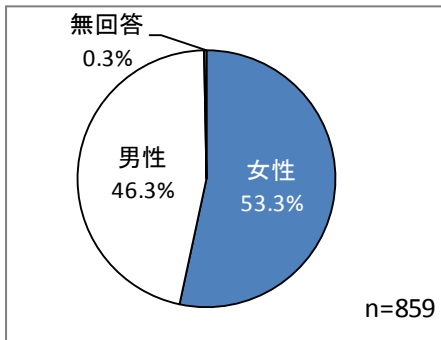
調査目的	男女平等参画のあり方について、市民の意見や要望を把握し、第2次小樽市男女平等参画基本計画（仮称）策定の基礎資料とし、今後の男女平等参画に関する施策に反映するため
調査対象	市内に居住する20歳以上の男女各 1,000 名
調査期間	平成 23 年 8 月 17 日～9 月 26 日
調査方法	調査票を郵送、返信用封筒により回収
回答結果	有効回収数（率） 859（43.0%）

※ 報告書の見方について

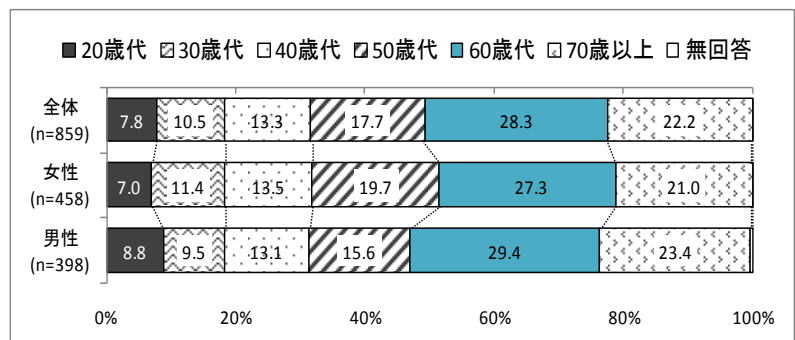
- ・ 数値については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 基礎となる実数は、n=000として記載し、各比率はnを100%として算出した。
- ・ 一人の回答者が二つ以上の回答を出してもよい設問では、各回答の比率は回答者数で割合を算出した。

# II 回答者の属性

性別

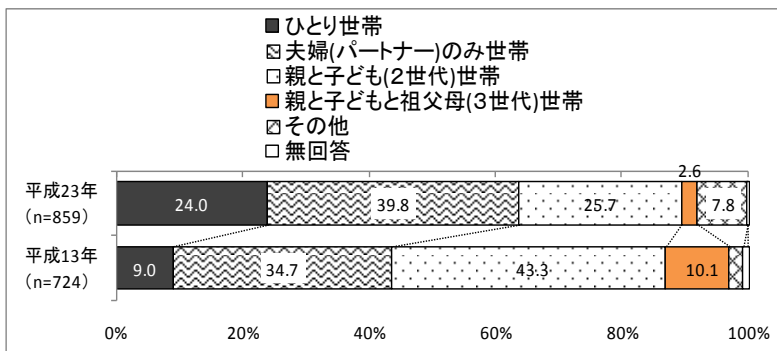


年代

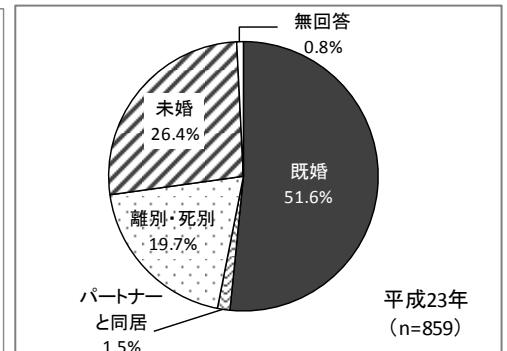


男女別の回答率は、女性の方が7.0ポイント高くなっており、年代別では60歳以上が全体の約半数を占めている。職業別では、仕事に就いている（自営業、会社員、パート等）割合は全体で51.3%（女性47.4%、男性56.4%）、家事専業は12.7%（女性23.8%、男性0.0%）、無職は32.4%（女性26.0%、男性39.2%）となっている。

世帯構成



結婚の状況



世帯構成については、前回調査と比較すると、「ひとり世帯」が15.0ポイント、「夫婦（パートナー）のみ世帯」が5.1ポイント増加し、「2世代世帯」が17.6ポイント、「3世代世帯」が7.5ポイント減少している。

結婚の状況については、前回調査と比較すると、「既婚」が20.0ポイント減少し、「未婚」が11.1ポイント、「離別・死別」が7.0ポイント増加している。

共働きの有無については、「既婚」「パートナーと同居」の回答者の内、「共働きである」の割合が32.0%、「共働きではない」が62.7%となっている。

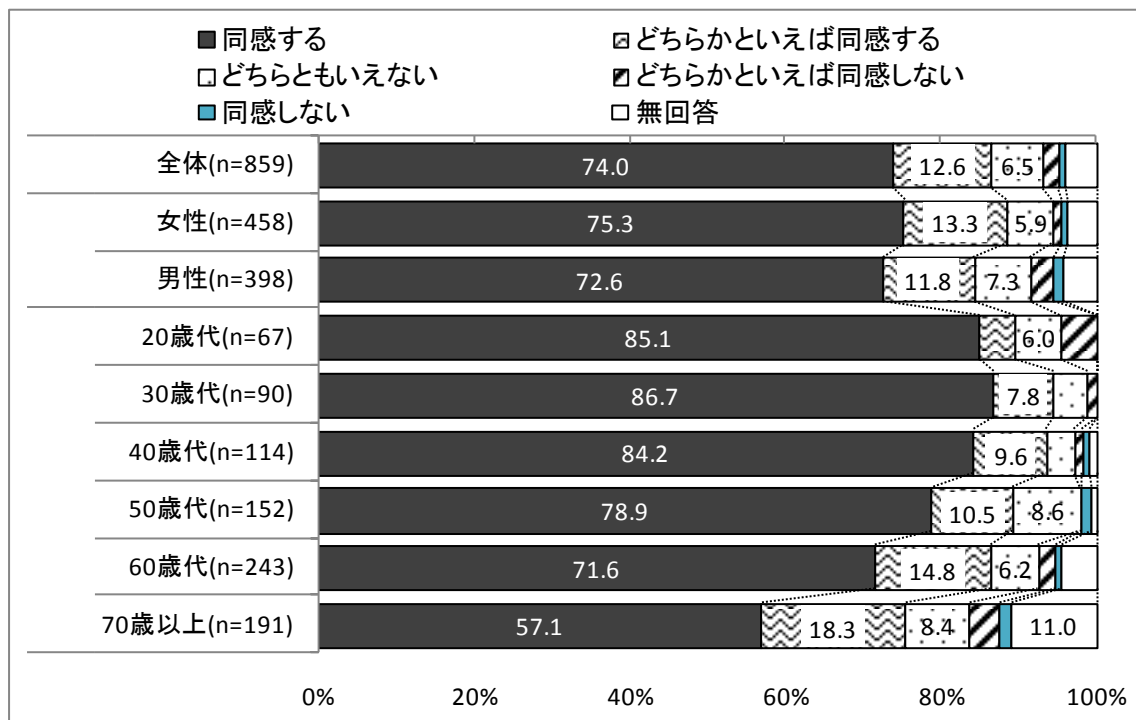
### Ⅲ 調査結果の概要

#### 1 暮らしや生き方について

##### 1. 結婚観、家庭観に関する意識について

###### ① 結婚するかしないかは個人の自由である。

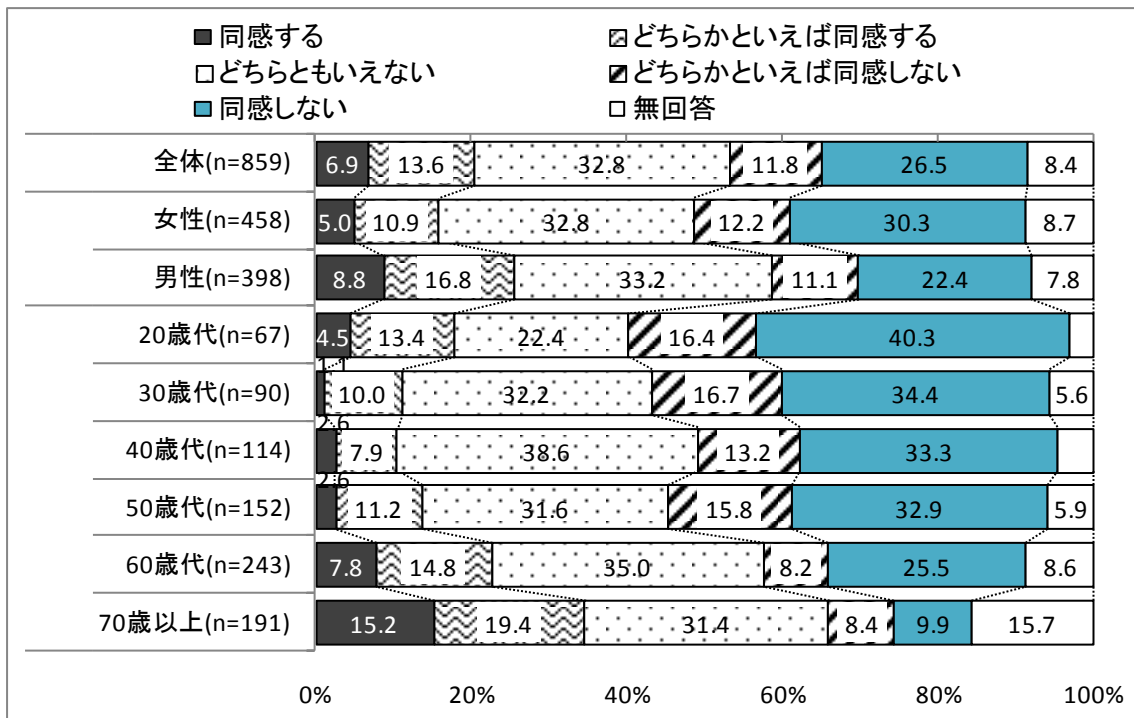
・「結婚するかしないかは、個人の自由である」に同感する方が80%を超えた。



結婚についての考え方については、「結婚するかしないかは、個人の自由である」に「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合が86.6%と最も高くなっている。年代別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合は、年代が若いほど高くなっているが、20歳代では30～40歳代よりも低くなっている。

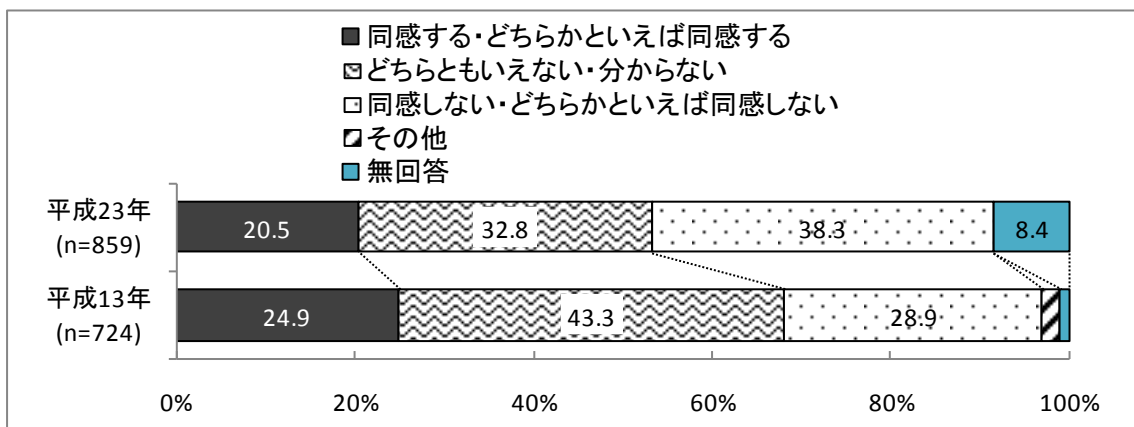
② 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」だと思ふ。

・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に同感しない方の割合が高い。



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、「同感しない」「どちらかといえは同感しない」の割合が38.3%で、「同感する」「どちらかといえは同感する」の20.5%を上回っている。年代別で見ると、「同感しない」「どちらかといえは同感しない」の割合は、年代が若いほど高くなっている。

夫は外で働き、妻は家庭を守るべき（前回調査との比較）

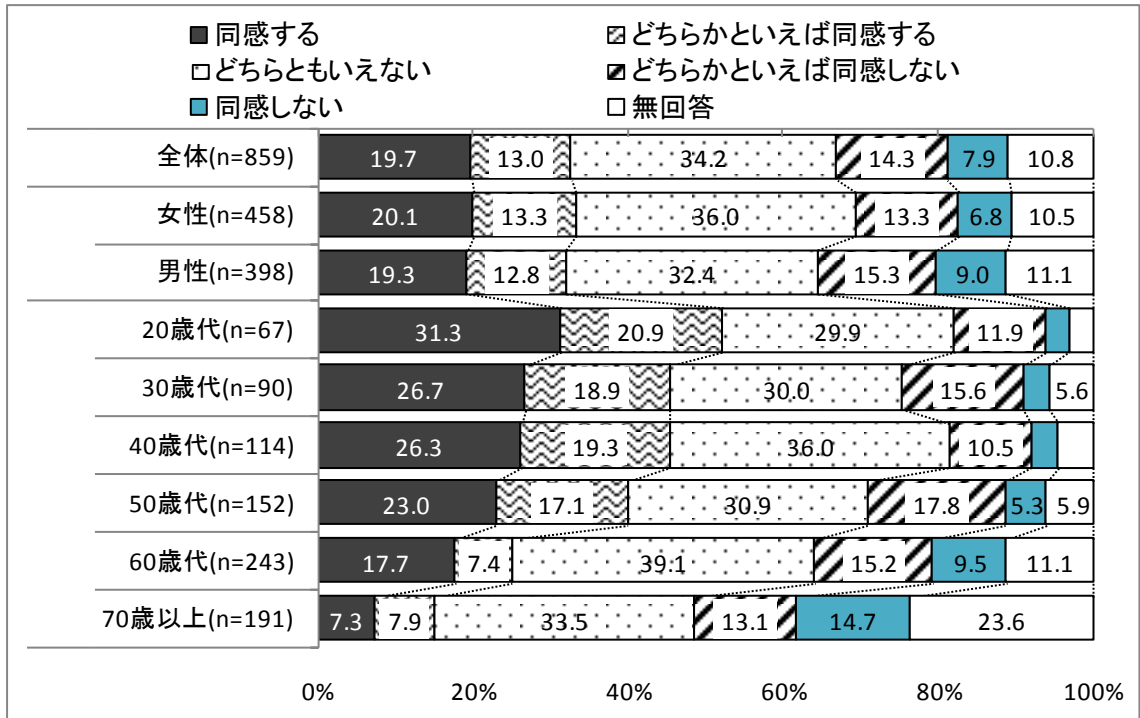


前回調査と比較すると「同感する」「どちらかといえは同感する」の割合が減少し、「同感しない」「どちらかといえは同感しない」が増加しており、この10年間で固定的性別役割分担意識は少しずつ薄れてきている。

\* 「固定的性別役割分担」  
 男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。「男は仕事・女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等は固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。

③ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない。

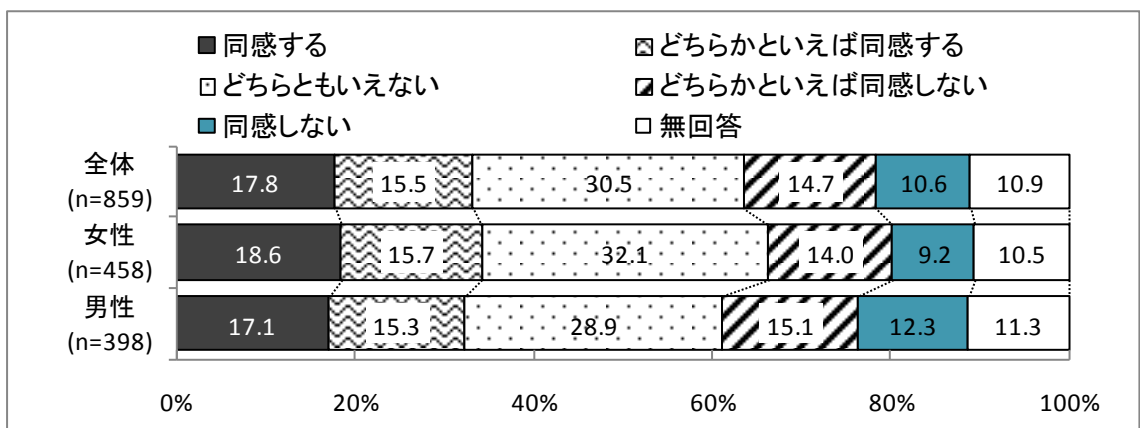
・「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」に同感する方の割合が高い。



「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方については、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合が32.7%で、「同意しない」「どちらかといえば同意しない」の22.2%を上回っている。年代別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合は年代が若いほど高くなっている。

④ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい。

・「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」に同感する方の割合が高い。

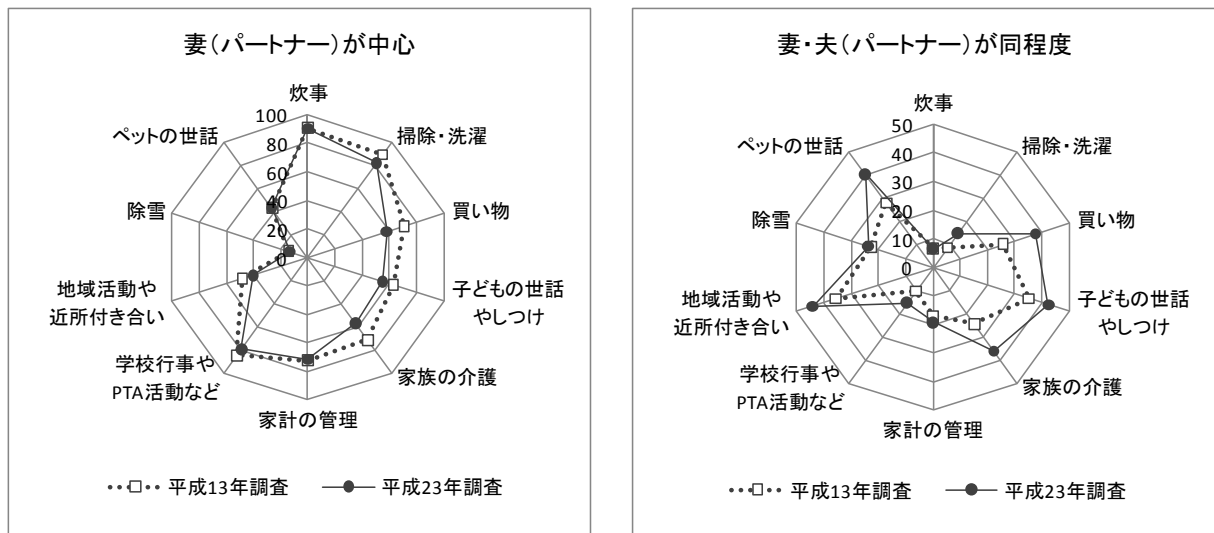


「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考え方については、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合が33.3%で、「同意しない」「どちらかといえば同意しない」の25.3%を上回っている。

①～④いずれの質問においても、「結婚はすべき」「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」「結婚したら子どもを持つべき」「離婚はすべきではない」という固定観念は、男性の方が女性より強い傾向となっている。

## 2. 家庭内の家事分担について

・10項目中、7項目の家事は「妻が中心」で、「夫が中心」なのは除雪のみ 単位(%)



「炊事」など10項目の家事分担については、「夫が中心」に行っているのは「除雪」のみで、「地域活動や近所付き合い」「ペットの世話」を除く7項目は、「妻が中心」の割合が高くなっている。

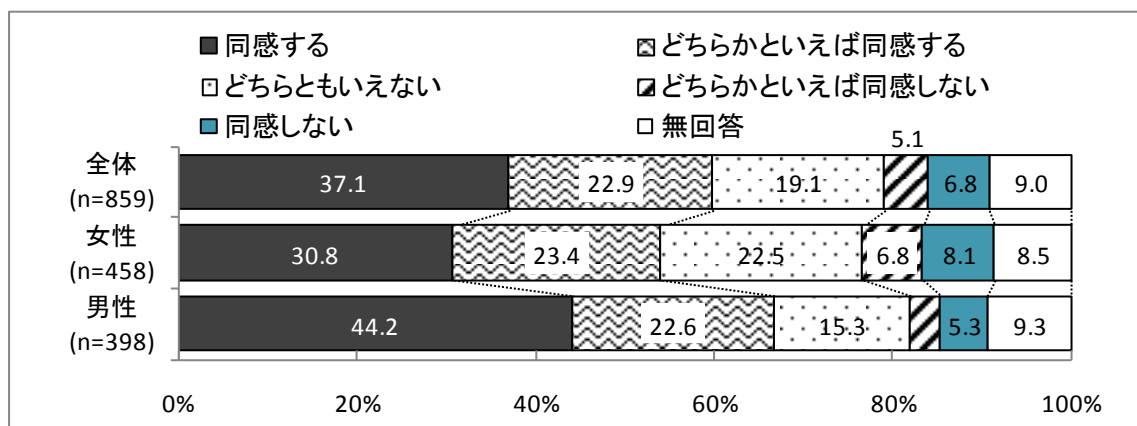
前回調査と比較すると、「ペットの世話」を除く9項目で「妻が中心」の割合が減少し、特に「買い物」「家族の介護」では約13～15ポイント減少しているものの、「炊事」「掃除・洗濯」「家計の管理」「学校行事やPTA活動など」の4項目では、いまだ「妻が中心」が70%を超えている。また「妻・夫が同程度」は「炊事」を除く9項目で前回より増加し、特に「買い物」「家族の介護」で増加しており、男性の参加が増えてきている。

家庭内での家事への男性の参加は、前回より増えてきているものの、日常的な家事（炊事、掃除、洗濯など）への参加は進んでいない。「男性が家事などに参加するために必要なこと」として、労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにするほか、男性の家事参加について啓発するとともに、研修による男性の家事技能を高めていくことが求められている。

## 3. 子育ての考え方について

① 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい。

・半数以上の人子どもに「女(男)らしさ」を望んでいる。

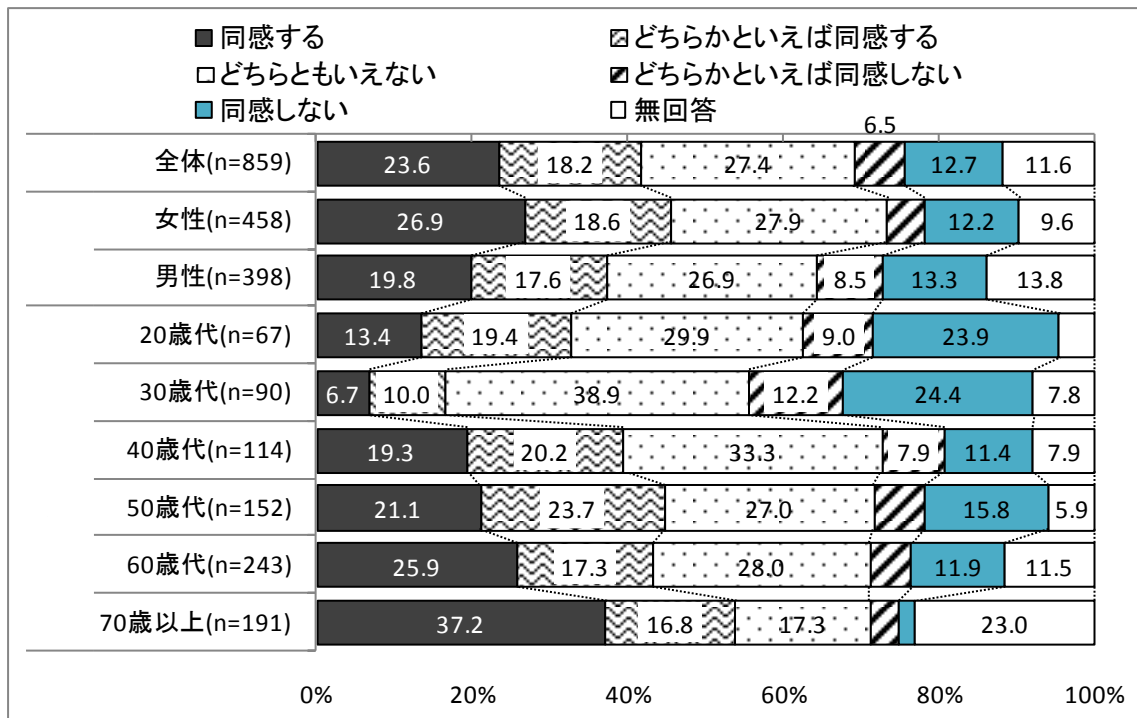


「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」の考え方について、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合が60.0%で、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の11.9%を大きく上回っている。



② 3歳くらいまでは母親が育てた方がよい。

・約42%の人が「3歳くらいまでは母親が育てた方がよい」と考えている。

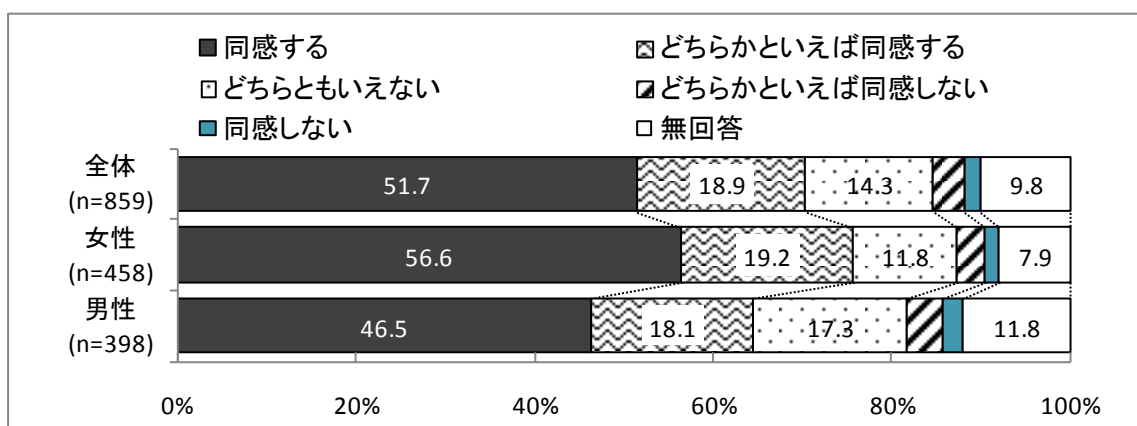


「3歳くらいまでは母親が育てた方がよい」の考え方については、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合が41.8%で、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の19.2%を上回っている。性別で見ると、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合は女性の方が高くなっており、女性の方が母親による子育てについて肯定的となっている。

年代別で見ると、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合は30歳代だけは極端に低く、年代が上がるにつれて高くなる傾向となっている。30歳代は共働きの割合が最も高く、実際に子育てをしている中で、母親だけでの子育ては難しいという現状や、近年、育児に関わる男性が増えているためと思われる。

③ 家事の手伝いは男女平等にさせる方がよい。

・約71%の人が「家事の手伝いは男女平等にさせる方がよい」と考えている。

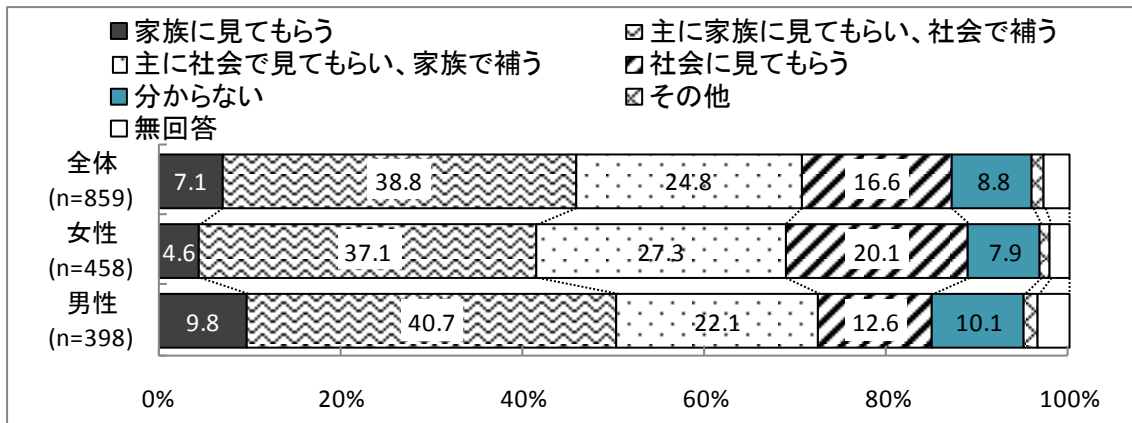


「家事の手伝いは男女平等にさせる方がよい」の考え方については、「同感する、どちらかといえば同感する」の割合が70.6%となっている。性別で見ると「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合は女性の方が高くなっている。



#### 4. 自分の世話を誰に見てもらいたいのか。

・「家族に見てもらいたい」派と「社会に見てもらいたい」派がほぼ同じ割合

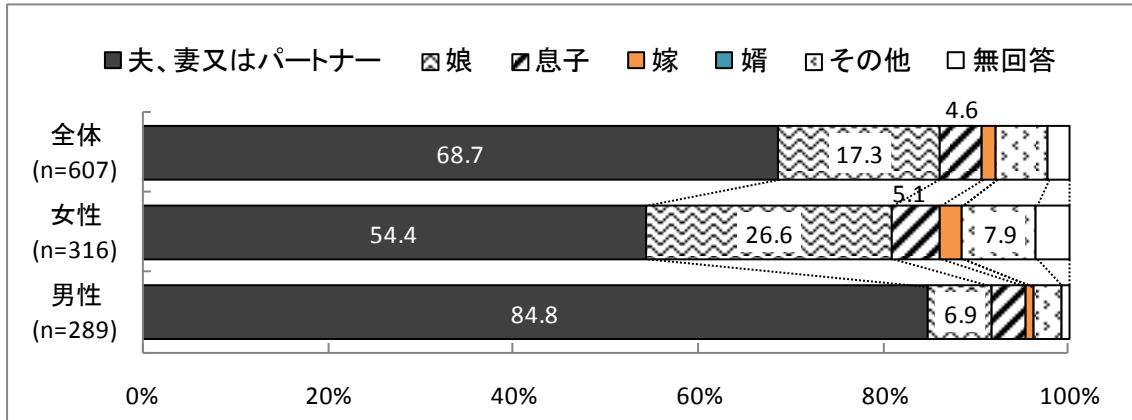


自分の世話を誰に見てもらいたいかは、「家族に見てもらう」「主に家族に見てもらい、社会で補う」と「社会に見てもらう」「主に社会で見てもらい、家族で補う」の割合がほぼ同じとなっているが、性別で見ると、女性は「社会に見てもらいたい」派、男性は「家族に見てもらいたい」派の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、前は「家族に見てもらいたい」派の割合の方が多かったが、今回は、「家族に見てもらいたい」派と「社会に見てもらいたい」派の割合がほぼ同じ割合となっている。

#### 5. 家族に見てもらう場合は誰に頼みたいか。

・夫、妻に見てもらいたい人が約69%、男性の方が特にその傾向は強い。



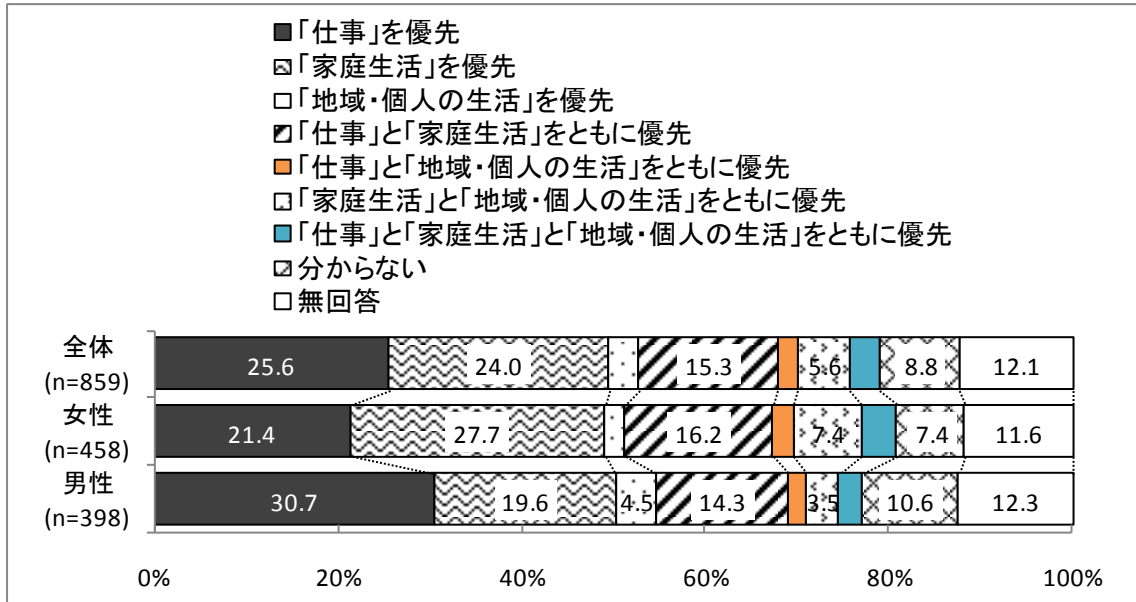
家族の誰に頼みたいかについては、「夫、妻又はパートナー」の割合が68.7%となっている。性別で見ると、女性は「夫又はパートナー」が54.4%、「娘」が26.6%となっており、男性は「妻又はパートナー」が84.8%と高い割合となっている。

## 2 仕事と生活の調和について

### 6. 生活の中における優先度について（現実と希望）

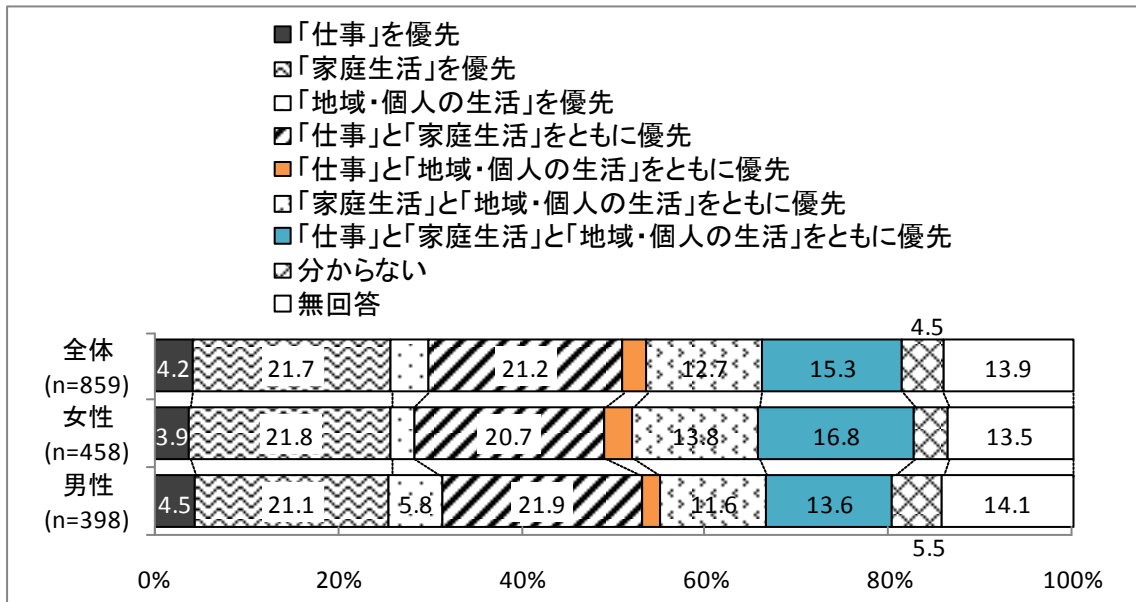
#### ①現実

・現実では、女性は「家庭生活」を、男性は「仕事」を優先している。



#### ②希望

・男女とも「家庭生活を優先」と「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が高い。



現実では、女性は「家庭生活を優先」、男性は「仕事を優先」している割合が高いが、希望では、男女とも「家庭生活を優先」と「仕事と家庭生活をともに優先」の割合が高くなっている。現実と希望とのギャップは男性の方が大きくなっている。

7. 地域活動等への参加時における支障について（複数回答）

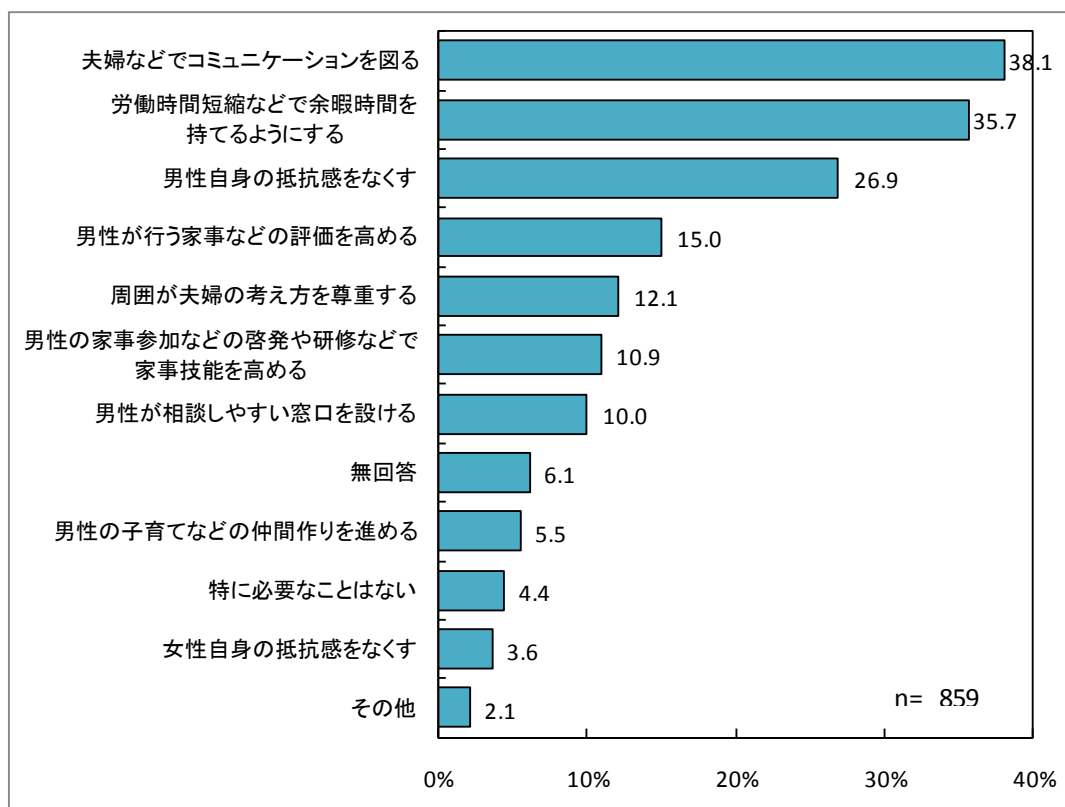
・「仕事が忙しい」「活動する仲間や機会がない、少ない」が支障となっている。

単位（％）

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	仕事が忙しい 31.3	活動する仲間や機会が少ない 26.1	情報がない、少ない 21.9	特に支障はない 18.7	関心がない、したいと思わない 13.5
女性	仕事が忙しい 27.5	活動する仲間や機会が少ない 24.7	情報がない、少ない 21.8	特に支障はない 19.0	関心がない、したいと思わない 11.4
男性	仕事が忙しい 35.9	活動する仲間や機会が少ない 27.6	情報がない、少ない 21.9	特に支障はない 18.1	関心がない、したいと思わない 16.1

8. 男性が家事や子育てなどに参加するために必要なことについて（複数回答）

・「夫婦などでコミュニケーションを図る」「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」が上位を占めた。



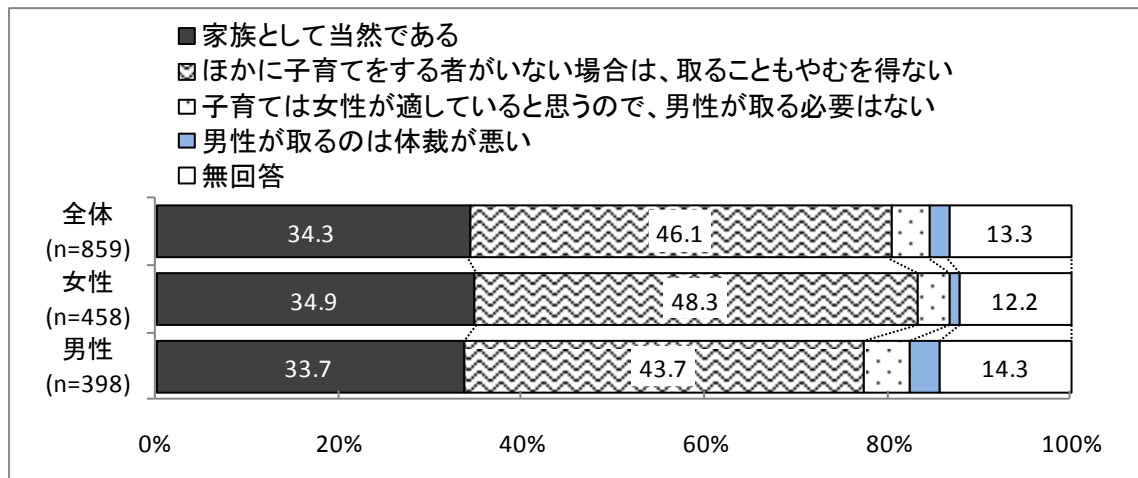
男性が家事、子育てなどに参加するために必要なことについては、「夫婦などでコミュニケーションを図る」の割合が38.1%と最も高く、次いで「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」が35.7%、「男性自身の抵抗感をなくす」が26.9%と続いている。

性別で見ると、女性は「夫婦などでコミュニケーションを図る」、男性は「労働時間短縮などで余暇時間を持てるようにする」の割合が高くなっている。

## 9. 男性が育児休業や介護休業を取ることにについて

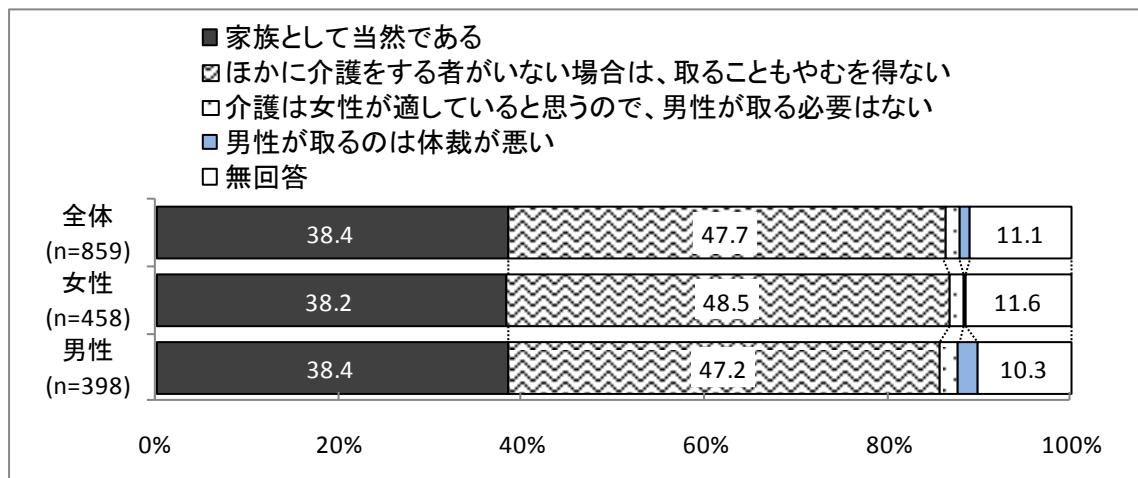
### ① 育児休業

・「ほかに子育てをする者がいない場合はやむを得ない」が約46%、「家族として当然である」が約34%と続く。



### ② 介護休業

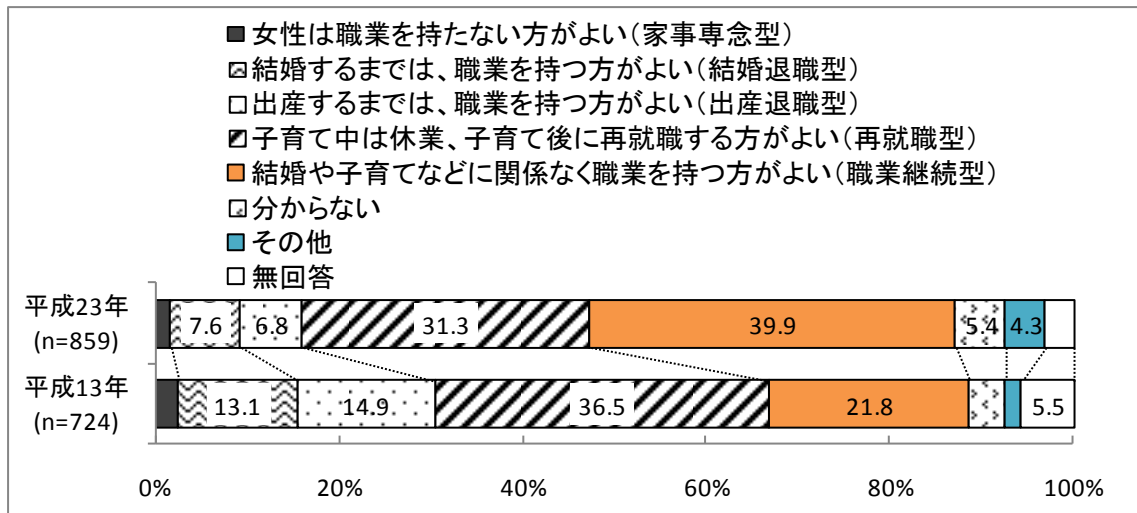
・「ほかに介護をする者がいない場合はやむを得ない」が約48%、「家族として当然である」が約38%と続く。



男性が育児休業や介護休業を取ることにについては、「ほかに子育てや介護をする者がいない場合は取ることもやむを得ない」は40%、「家族として当然である」は30%を超えているものの、「小樽市労働実態調査」（平成22年9月）では、市内企業での男性の育児休業者の取得者はいないことから、事業主への育児・介護休業制度や職場環境整備についての啓発が必要となっている。

## 10. 女性が職業を持つことについて

・1位「職業継続型」約40%、2位「再就職型」約31%となった。



女性が職業を持つことについては、「職業継続型」の割合が39.9%、「再就職型」が31.3%となっている。前回調査と比較すると、「結婚退職型」「出産退職型」「再就職型」が減少し、「職業継続型」の割合が増加したため、1位と2位が逆転した。

## 11. 女性の職場進出のための条件整備について（複数回答）

・「保育・介護の施設やサービスの拡充」「育児・介護休暇制度の普及、充実」が上位を占めた。

単位（%）

	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	保育・介護の施設やサービスの拡充 48.4	育児・介護休暇制度の普及、充実 37.8	労働条件面で男女差をなくす 21.7	退職女性の再雇用制度の充実 19.3	労働時間短縮や休日増加の推進 15.1	
女性	保育・介護の施設やサービスの拡充 51.5	育児・介護休暇制度の普及、充実 39.5	労働条件面で男女差をなくす 20.5	退職女性の再雇用制度の充実 18.3	労働時間短縮や休日増加の推進 14.4	
男性	保育・介護の施設やサービスの拡充 45.0	育児・介護休暇制度の普及、充実 36.2	労働条件面で男女差をなくす 22.9	退職女性の再雇用制度の充実 20.1	昇進や昇格の機会を均等に 16.1	
年代別	20歳代	育児・介護休暇制度の普及、充実 41.8	保育・介護の施設やサービスの拡充 37.3	労働条件面で男女差をなくす 23.9	退職女性の再雇用制度の充実 20.9	昇進や昇格の機会を均等に 16.4
	30歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充 54.4	育児・介護休暇制度の普及、充実 44.4	労働条件面で男女差をなくす 17.8	退職女性の再雇用制度の充実 16.7	昇進や昇格の機会を均等に 14.4
	40歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充 54.4	育児・介護休暇制度の普及、充実 36.0	労働条件面で男女差をなくす 25.4	各18.4	
	50歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充 48.7	育児・介護休暇制度の普及、充実 45.4	各21.7		13.8
	60歳代	保育・介護の施設やサービスの拡充 51.0	育児・介護休暇制度の普及、充実 31.3	労働条件面で男女差をなくす 22.6	退職女性の再雇用制度の充実 20.6	労働時間短縮や休日増加の推進 18.9
	70歳以上	保育・介護の施設やサービスの拡充 46.6	育児・介護休暇制度の普及、充実 32.5	労働条件面で男女差をなくす 22.5	退職女性の再雇用制度の充実 15.2	労働時間短縮や休日増加の推進 13.1

女性の職場進出のための条件整備については、「保育・介護の施設やサービスの拡充」の割合が48.4%、次いで「育児・介護休暇制度の普及・充実」が37.8%、「労働条件面で男女差をなくす」が21.7%と続いている。年代別で見ると、20～30歳代では「育児・介護休暇制度の普及・充実」、40歳以上では「保育・介護の施設やサービスの拡充」の割合が最も高くなっている。

### 3 男女の人権について

#### 12. ドメスティック・バイオレンス (DV)、セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) について (複数回答)

・DVの被害経験は全体で約4%、女性対男性の比率は3対1となった。セクハラ被害経験は全体で約5%、女性対男性の比率は9対1となった。

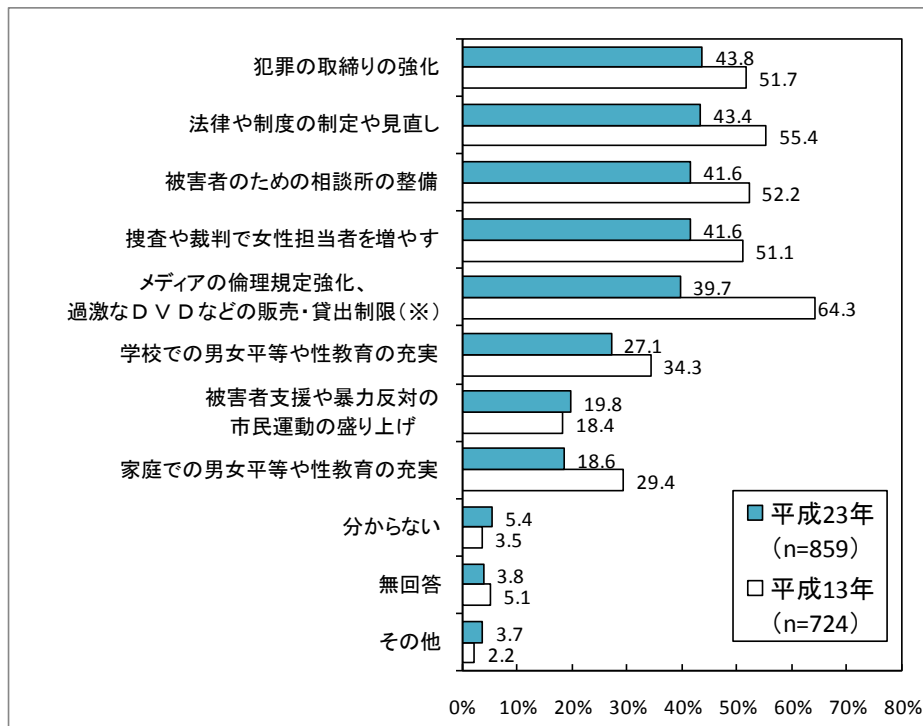
単位 (%)

		自分が直接被害を受けたことがある	相談を受けたことがある	被害を受けた人を知っている	身近に被害を受けた人はいない	言葉自体を知らない	自分が加害者になったことがある	無回答
DV	全体	4.4	4.4	17.0	47.6	1.6	0.9	28.3
	女性	6.3	5.2	21.0	43.4	2.0	0.9	27.5
	男性	2.3	3.5	12.6	52.8	1.3	1.0	28.6
セクハラ	全体	5.2	5.4	13.0	46.7	1.4	0.9	32.1
	女性	9.0	5.2	14.0	42.6	1.5	0.4	33.4
	男性	1.0	5.3	11.8	51.8	1.3	1.5	30.4

DV、セクハラともに、「身近に被害を受けた人はいない」の割合は約半数となっている。「自分が直接被害を受けたことがある」については、DVでは女性対男性の比率は3対1で、セクハラでは9対1で被害者の多くは女性となっている。

#### 13. DV等の暴力をなくすためにどうしたらよいか。(複数回答)

・1位「犯罪の取締りの強化」、2位「法律や制度の制定や見直し」となった。



※ 前回調査と質問内容を変更

DV等の暴力をなくすためには、「犯罪の取締りの強化」「法律や制度の制定や見直し」「被害者のための相談所の整備」「捜査や裁判で女性担当を増やす」の割合が40%を超えている。

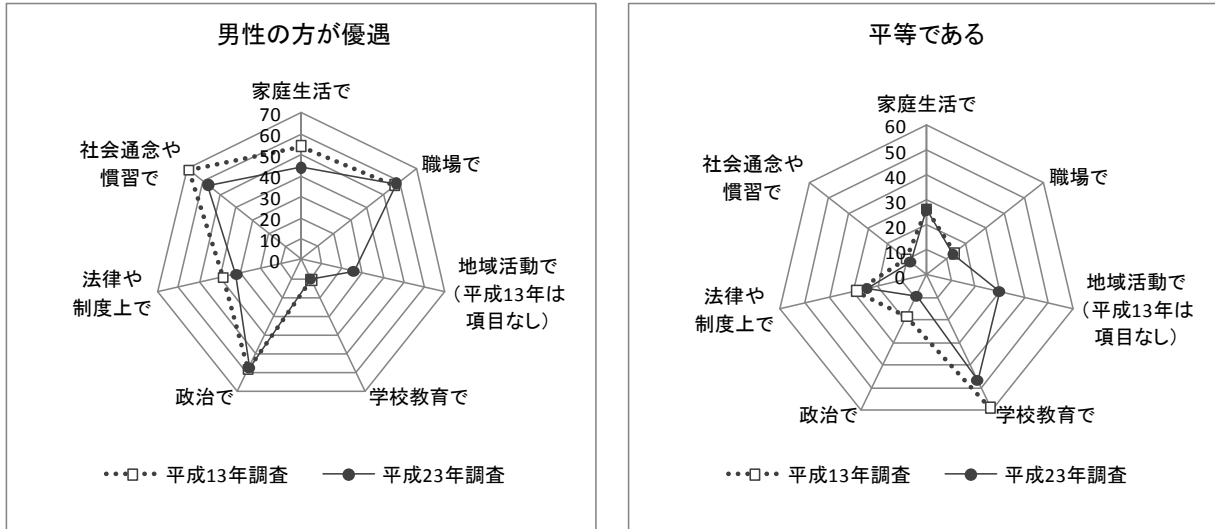
DV等の被害者は、誰にも相談できず我慢している人が多く、潜在化しているケースがあると予想されることから、DV等防止の啓発と相談窓口の周知を図るとともに関係機関相互の緊密な連携が必要となっている。

## 4 男女平等参画社会の形成について

### 14. 男女の地位の平等感について

- ・男女が平等であるのは「学校教育」のみ、「職場」「政治」「社会通念や慣習」では男性優遇の割合が特に高い。

単位(%)

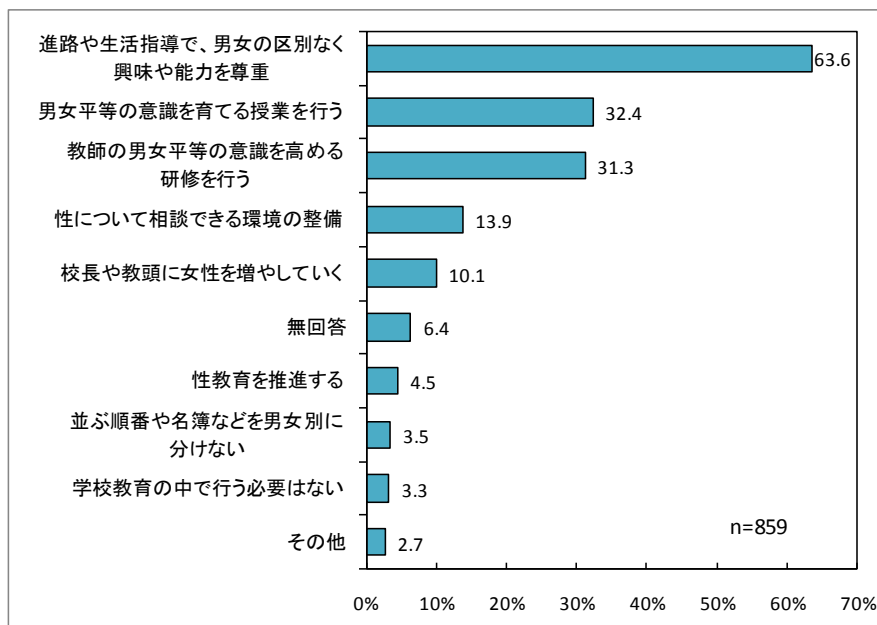


男女の地位の平等感については、「平等である」は「学校教育」のみで、「男性の方が優遇」は「職場」「政治」「社会通念や慣習」の3分野が50%を超え高い割合となっている。前回調査と比較すると、「家庭生活」「法律や制度上」「社会通念や慣習」の分野で「男性の方が優遇」の割合が減少し改善されているが、「学校教育」「政治」の分野で「平等である」が減少している。

あらゆる分野で男女が平等に参画するためには、社会通念や慣習の背景にある固定的性別役割分担意識の解消や家庭における家事、育児、介護など身近なところからの意識改革を進めていくことが必要となっている。

### 15. 学校教育における男女平等のあり方について (複数回答)

- ・「進路や生活指導で、男女の区別なく興味や能力を尊重」が60%を超えている。

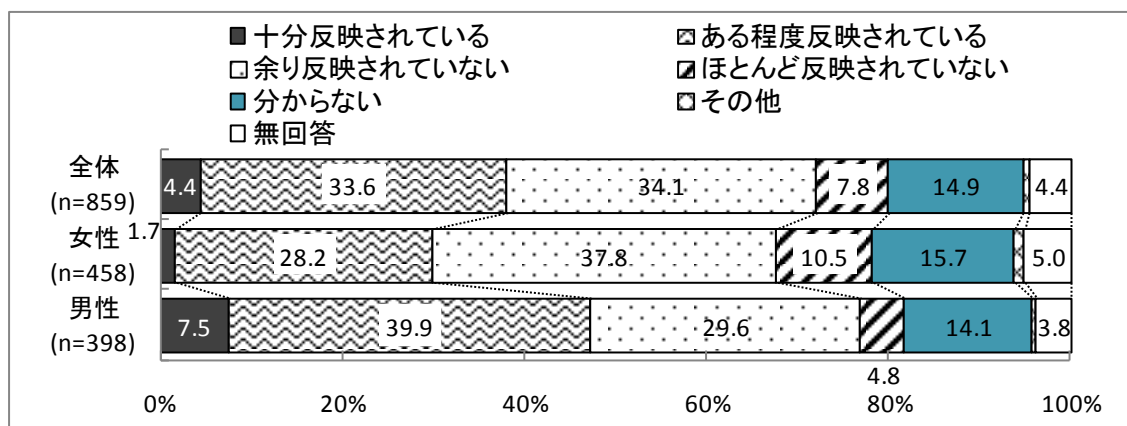




学校教育の場における男女平等のあり方については、「進路や生活指導で、男女の区別なく興味や能力を尊重」の割合が63.6%と最も高く、「男女平等の意識を育てる授業を行う」「教師の男女平等の意識を高める研修を行う」が30%を超えているものの、「学校教育の中で行う必要はない」は、3.3%となっている。国の第3次男女共同参画基本計画の重点施策に新たに設けられたとおり、子どもの頃からの男女平等参画についての理解を促進していくことが求められている。

### 16. 政治や行政での女性意見の反映について

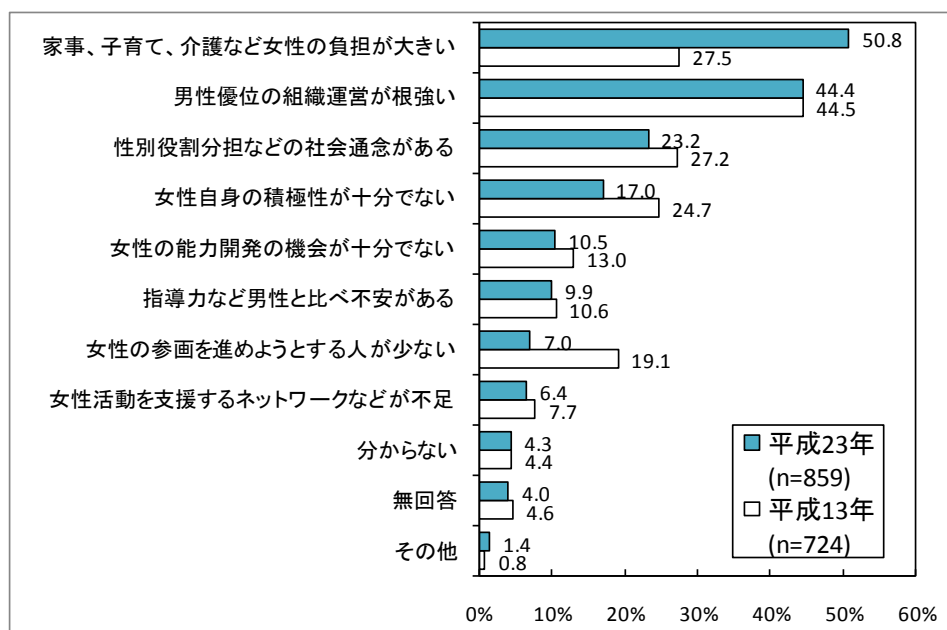
・女性は「反映されていない」、男性は「反映されている」と感じている。



政治や行政での女性意見の反映については、「余り反映されていない」「ほとんど反映されていない」の割合が41.9%で、「十分に反映されている」「ある程度反映されている」の38.0%を上回っている。性別で見ると、女性は「反映されていない」、男性は「反映されている」の割合が高くなっており、男女で感じ方が大きく違っている。

### 17. 政策等決定の場で女性が少ない理由について（複数回答）

・「家事などで女性の負担が大きい」、「男性優位の組織運営が根強い」が上位を占めた。

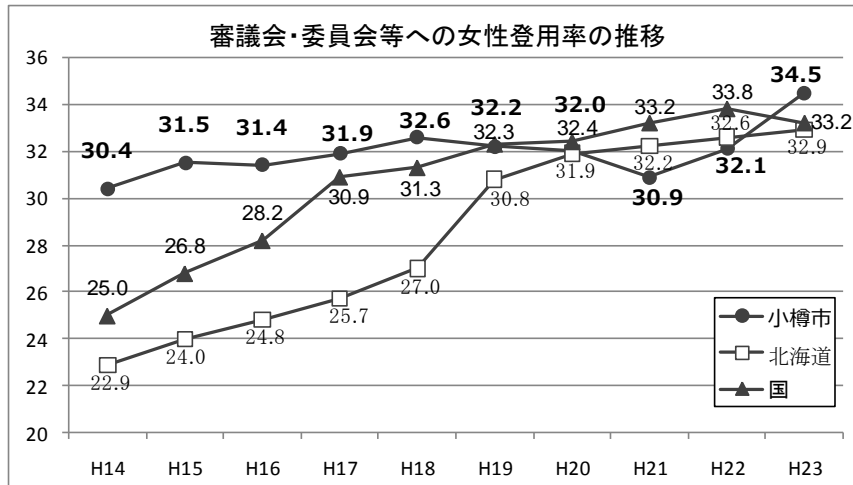


政策等決定の場で女性が少ない理由については、「家事、子育て、介護などで女性の負担が大きい」の割合が50.8%と最も高く、次いで「男性優位の組織運営が根強い」が44.4%、「性別役割分担などの社会通念がある」が23.2%と続いている。前回調査と比較すると、「家事、子育て、介護などで女性の負担が大きい」の割合が2倍近く増加している。

小樽市では市政運営への女性の参画を促進するため、現計画に市が設置する審議会・委員会等への女性委員の登用目標値を「平成24年までに40%」と設定しているが、平成23年4月時点で34.5%と目標値には到達していない。

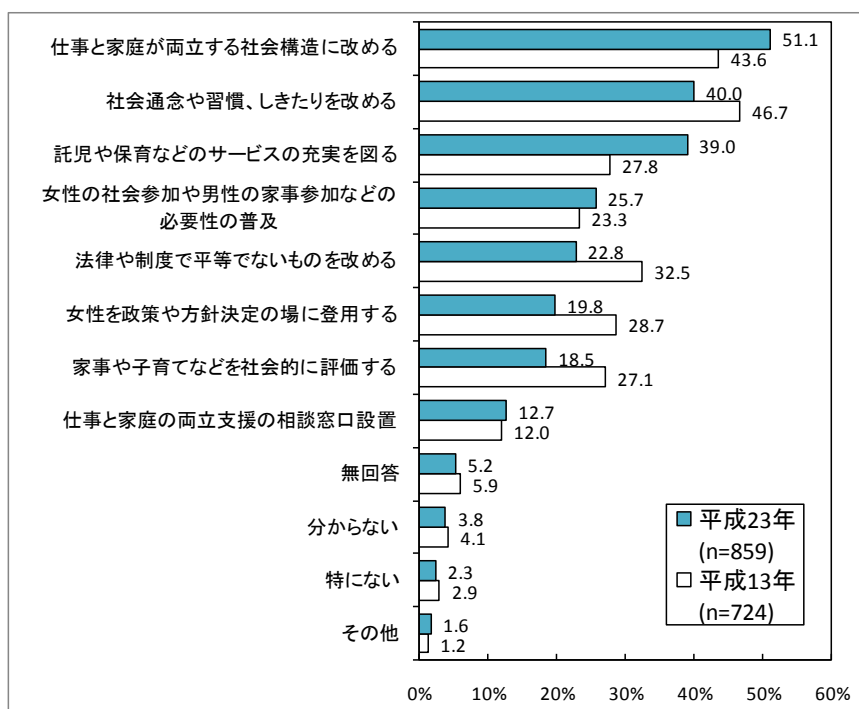
政策等決定の場に女性が参画し、その意見が反映されるためには、女性の進出を拒む要因である「家事などの負担」や「男性優位の組織運営」などについて改善を図り、女性が参画しやすい体制を作っていくことが求められている。

単位 (%)



### 18. 男女平等参画社会の実現のために社会をどう変えるか。(複数回答)

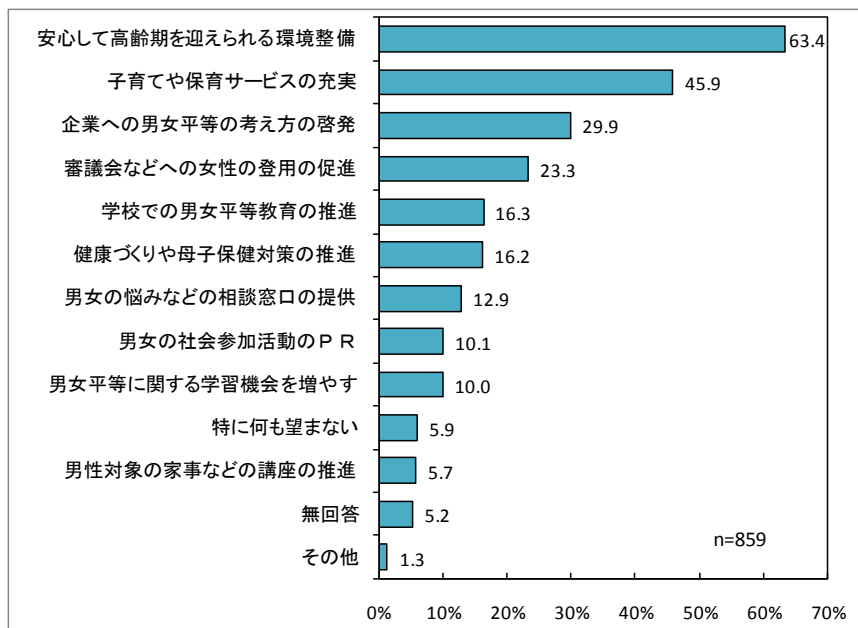
・「仕事と家庭が両立する社会構造に改める」の割合が51.1%と最も高い。



男女平等参画社会の実現のために社会をどう変えるかについては、「仕事と家庭が両立する社会構造に改める」の割合が51.1%と最も高く、次いで「社会通念や習慣、しきたりを改める」が40.0%、「託児や保育などのサービスの充実を図る」が39.0%と続いている。前回調査と比較すると、「仕事と家庭が両立する社会構造に改める」「託児や保育などのサービスの充実を図る」の割合が増加し、「法律や制度で平等でないものを改める」「社会通念や習慣、しきたりを改める」が減少している。

## 19. 男女平等参画を進めるために市に望むこと（複数回答）

・「安心して高齢期を迎えられる環境整備」「子育てや保育サービスの充実」が上位を占めた。



男女平等参画を進めるために市に望むことは、「安心して高齢期を迎えられる環境の整備」の割合が63.4%と最も高く、次いで「子育てや保育サービスの充実」が45.9%、「企業への男女平等の考え方の啓発」が29.9%と続いている。

小樽市の高齢化を反映し、「安心して高齢期を迎えられる環境の整備」は全ての年代で多くの人が望んでいる。また、「子育てや保育サービスの充実」は30歳代の子育て世代で望んでいる。

## 5 全体を通して

前回調査と比較し今回の結果を見ると、「男女の地位の平等感について」は、「家庭生活」「法律や制度上」「社会通念や慣習」で男性優遇が減少しているものの、「学校教育」「政治」で平等と感じる人の割合は減少しており、一進一退の状況となっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という固定的性別役割分担意識については、同感しない方の割合は増加し、固定的性別役割分担意識は10年間で少しずつ薄れてきている。

「家庭内の家事分担について」は、依然として「妻が中心」の割合が高い中で、ほとんどの項目で「妻が中心」の割合は減少し、特に「買い物」「家族の介護」では男性の参加が増加しており、少しずつ平等参画が進んでいる。

「女性が職業を持つこと」については、「職業継続型」の割合は増加し、特に共働きをしている男性は「職業継続型」に対する理解者が多くなっている。

「自分の世話を誰に見てもらいたいか」については、介護保険制度などを利用して社会で見てもらいたい人が前回よりも増加している。また、小樽市の高齢化を反映し、「安心して高齢期を迎えられる環境を整備」は全ての年代で多くの人が望んでいる。

今回の調査では、「生活の中における優先度について」は、現実では、女性は「家庭生活を優先」、男性は「仕事を優先」の割合が高いのに対して、希望では、男女ともに「家庭生活を優先」「仕事と家庭生活をともに優先」が高くなっている。現実と希望にギャップがあり、特に男性の方が大きくなっている。男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するためには、夫婦などでコミュニケーションをよく図りながら、互いに役割を担っていくことが必要と考えている人が多くなっている。

### 男女平等参画社会とは？

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会。

### 「小樽市男女平等参画に関する標語」

#### 最優秀賞

「信頼と尊敬が導く 男女平等参画社会」 (一般の部)

「仲よく 同じく 自分らしく 男女平等参画社会を旨ざして」

(中学生の部)



男女平等参画に関する市民意識調査報告書（概要版）

発行 平成 24 年 2 月

小樽市生活環境部男女平等参画課

〒047-0024 小樽市花園 2 丁目 10 番 18 号

TEL 0134-22-5904

FAX 0134-22-6081

E-mail [byodo-sankaku@city.otaru.lg.jp](mailto:byodo-sankaku@city.otaru.lg.jp)